

2025 年度事業報告書

特定非営利活動法人 記録と表現とメディアのための組織[remo]

1. 事業期間

2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

2. 事業の成果

設立より 23 期目の年となった 2025 年度は、継続している事業の節目と新規の事業とを新たな気持ちで行った 1 年となった。

AHA! [Archive for Human Activities／人類の営みのためのアーカイブ]について、「穴アーカイブ」（東京都世田谷）は 10 周年を機にウェブサイトのリニューアルと新たな仕組みづくりを、「ホーム・ムービング!」（茨城県水戸）は、一区切りとして集大成となるプログラムを実施した。また、これまで予備調査を続けていた新企画はより具体化し、2026 年夏に東京都美術館で開催する 100 周年記念企画展にて、AHA!として第 3 部のリサーチプロジェクトを担当することとなった。それにあたり、2025 年度は取材・調査のためアルゼンチンへ渡った。自主レーベルは、版元完売している書籍『わたしは思い出す』と取材・調査・編集中の『慰問文集再々発行プロジェクト』を継続している。

日々の活動については、2019 年より始めているニュースレターを月 1 回程度情報発信、2026 年 3 月末には 78 号目を配信した。購読者も 750 名ほどとなり、即時性に特化した SNS とは異なる、定期購読メディアとして編集に注力している。

Alternative Media Gathering は、今年度は 2 回開催。実施回数は少ないものの、貴重な機会に毎回多くの参加者が集っている。石川県珠洲・奥能登では、ディレクションを担当している参加型アーカイブプロジェクトの拠点「スズレコードセンター」がオープンした。

資金面は、事業受託や書籍販売などの収益、そして寄付金により事業の実施と管理費の維持に努めた。

今後、これまでのノウハウと人脈の蓄積をどう次に活かしていくか。これまでの事業の継続と並行し、新たな展開を見据えた事業の検討と予算の確保、蓄積した資源の整理や分析、そして情報整理と発信を行えるような法人の体制を検討していく必要がある。

3. 事業の実施状況

<特定非営利活動に関する事業>

(1) メディア表現の発表、鑑賞機会の企画運営事業

[事業の対象者] 不特定一般

①AHA! [Archive for Human Activities／人類の営みのためのアーカイブ]

①-1 「穴アーカイブ：an-archive 世田谷の8ミリフィルムにさぐる」

[実施内容] 昭和30～50年代の世田谷の風景や生活がパーソナルな視点から記録された8ミリフィルムを貴重な共有財と捉え直し、収集・公開・保存・活用していく映像アーカイブプロジェクト「穴アーカイブ」に、2015年より企画制作として関わっている。活動10周年にあたる2025年度は、1) SNSを用いた広報活動、2) ウェブサイトを活用した交流プログラム（せたがやアカカブの会、生活工房アレコレ2025、エトセトラの時間）の設計と運営を担った。1) については、とくにX（旧twitter）を活用して、ウェブサイトに公開している84タイトルに関する思い出やエピソードをひろく募集し、ウェブサイトの利活用を促進する動きを活発化させた。2) については後述のとおり。また、ウェブサイト『世田谷クロニクル1936-83』を、検索機能の向上をめざしたりリニューアルを行うとともに、視聴者の〈声〉を募集・表示する仕組みを整えた。

『世田谷クロニクル』

* 「せたがやアカカブの会」

[内容] かつての世田谷を記録した8ミリフィルムを手がかりに、いま・ここにいる私たちと映像との関係を結びなおす試み。時間をかけてじっくりと観ながら、紡ぎ出された記憶や想像の断片をじっくりと語り合う定例会。2025年度は、対面でのワークショップとハガキでのアンケート方式とのハイブリッドで開催した。ワークショップの成果は広報紙『かぶうずら』としてまとめ、生活工房ウェブサイトにて公開。また、ワークショップの様子を映像で記録し、生活工房ウェブサイトにてダイジェストの動画として現在公開中。

[場所] 世田谷文化生活情報センター生活工房 ワークショップルーム A

[時間] 14:00～15:30

1回目

[日時] 2025年5月11日（日）（ハガキ募集期間：2025年4月8日～5月7日）

[参加者数] 9名（+ハガキ回答3名）

2回目

[日時] 2025年9月28日（日）（ハガキ募集期間：2025年8月8日～9月7日）

[参加者数] 7名（+ハガキ回答1名）

3回目

[日時] 2026年1月25日（日）（ハガキ募集期間：2025年12月8日～2026年1月22日）

[参加者数] 14名（+ハガキ回答2名）

*生活工房アレコレ2025 8ミリフィルム常設上映

[内容] 生活工房のバックヤードに眠る事々物々を小さく紹介する「生活工房アレコレ」にて、毎月8日、ウェブサイト『世田谷クロニクル』で公開中の映像を入れ替えながら、来場者から映像をきっかけに思い出したエピソードを募った。

[日時] 2025年4月8日(火)～2026年4月7日(火)

[場所] 世田谷文化生活情報センター生活工房 ギャラリー (3F)

*エトセトラの時間 見えるものと見えないものを語る会

[内容] 目の見える人、見えない人、障害の有無にかかわらず多様な背景を持つ人と集まって、8ミリフィルムの映像をオンラインで鑑賞。見えるもの、見えないもの、様々な視点や参加者が持ち寄った言葉を交わしながら、「エトセトラ」の時間を楽しむ。視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップと共同で本企画を実施した。

[日時] 2025年7月21日(月)、2026年2月11日(水) 全日 14:00～16:30

[参加者数] 6名

*昭和100年にみるホームムービー

[内容] 生活工房による8ミリフィルム・アーカイブ事業「穴アーカイブ」は、今年で10周年を迎え、節目となる今回は、小説家・滝口悠生さんが選んだフィルムを鑑賞しながら、記録に残ったもの、残らなかったものについて考えるイベントを実施した。

[日時] 2025年9月27日(土) 14:00～16:00

[場所] 世田谷文化生活情報センター生活工房 ワークショップルームB

[ゲスト] 滝口悠生(小説家)

[進行] 松本篤(remo / AHA!世話人)

[参加者数] 38名

①-2 ホーム・ムービング!

[内容] 市井の人々の記録や記憶をとおして、水戸の生活風景を考えるアーカイブの取り組み。2017年から始まった本プロジェクトでは、水戸市民から提供された8ミリフィルムのデジタル化と公開作業を進めてきた。最終年度である2025年度は、上映会の企画・進行役を務めるほか、集大成として記録集の制作や、収集・デジタル化した約11時間(71タイトル)の動画の公開を行った。

*広場上映会-8ミリ映像で昭和の水戸の街を見よう!

[内容] 昭和30年～50年の間に撮影された水戸の町並みや暮らしが映る映像を、特設した屋台を用いて上映。鑑賞をつうじて鑑賞者自身の水戸にまつわる記憶が回想される機会を創出した。当日は降雨のため、広場脇の回廊部分に移動し、開催した。

[日時] 2025年10月25日(土) 14:00～19:00

[場所] 水戸芸術館広場

* 『みえないものをみる』刊行記念イベント

[内容] 本活動の集大成として、2つのプログラムが開催。①では、『みえないものをみる 5名の案内人による8ミリフィルム鑑賞ガイド』を手に、スクリーンの外の風景に目を向け、参加者それぞれの〈国道50号の生活史〉を伺った。②では、「ホーム・ムービング!」の活動をつうじて出会ったミニコミ誌『にんじん通信』(のちの『にんじん村通信』『にんじんの森通信』)に着目。1980年代後半に水戸芸術館の建設予定地(五軒小学校跡地)にて主婦仲間3人が始めたフリーマーケット「にんじん村どよういちば」の活動を関係者とともに振り返りながら、1990(平成2)年3月22日に開館する芸術館が、まだ〈原っぱ〉だった頃の風景に思いを巡らせた。

[日時] 2026年3月20日(金・祝) ①13:00~15:00 ②16:00~17:30

[場所] 水戸芸術館 現代美術ギャラリー ワークショップ室

[参加者数] 50名

①-3 東京都美術館 開館100周年企画展《百日草の庭》リサーチ・プロジェクト

[実施内容] 東京府美術館(現在は東京都美術館)が開館した1926年に描かれ、翌27年に同館の所蔵作品第一号となった油彩画《百日草の庭》(現在は東京都現代美術館所蔵)と、謎につつまれたその作者・藤岡鉄太郎(生没年、活動歴不詳)に光を当てる取り組み。その一環として花に関する私的な記録と記憶を集め、2027年の日めくりカレンダーを制作する〈花のカレンダー1926-2027〉を実施。今年度は掲載する花の写真とエピソードを募集した。企画展は2026年夏に開催予定。

①-4 回想録『わたしは思い出す』

[内容] 人は経験していないことを、どのように経験できるのか。せんだい3.11メモリアル交流館およびデザイン・クリエイティブセンター神戸での展覧会「わたしは思い出す」(2021年)の内容に、新たな要素を加えて再構成。1冊の書籍にまとめ、2023年1月にAHA!出版レーベル第1弾として刊行。2023年6月に版元在庫は完売しているが、特設サイトで全文を試し読み公開中。

[書籍名] 『わたしは思い出す I remember — 11年間の育児日記を再読して』

[発行] 2023年1月11日

[仕様] W110×H160 / 並製 / 832頁

[価格] 3,500円(税込)

①-5 戦時中の子どもたちが書いた"平和への願い"を再びなぞる。『慰問文集』再々発行プロジェクト

[実施内容] 戦地の兵士を励ますために書かれた「慰問文」の再々発行をめざして、岐阜県美濃加茂市伊深町において関係者への取材、文献調査、複写作業を2019年より実施。80年前、40年前に綴られた『慰問文集』をとおして、戦場の父や兄に、子どもたちはどんな言葉を送ったのかを探っている。戦後80年を迎えた2025年度は、書籍化に向けた

現地取材・調査を引き続き行うとともに、『戦争の記録』全40巻のデジタルアーカイブに着手。ウェブサイト上でいつでも読めるよう、公開の準備を進めている。

*昭和のくらし博物館 ちゃぶ台講座 1

「戦争と〈私〉をつなぐ物語を探す」プロジェクト関連企画

記録を“なぞる”ためのレッスン——『慰問文集』再々発行プロジェクトを事例として

[内容] 昭和のくらし博物館が主催する「ちゃぶ台講座」にゲスト登壇。『慰問文集』にまつわる取り組みと、昭和のくらし博物館での展示を手がかりに、戦争と〈私〉の物語のカケラを参加者とともに考えた。

[日時] 2026年1月21日(水) 19:00~20:30

[開催方法] Zoomによるオンライン開催

[ゲスト] 水野雄太

[参加人数] 28名

②Alternative Media Gathering

*Østile: ハンドメイド印刷工房が日々の闘争を可視化する

[実施内容] 世界中で人々の闘いをつないできたローマの印刷工房 Østile が来日の機会に、コーポ北加賀屋でハンドメイド印刷のワークショップを実施。開幕前から万博の負債を背負わされた大阪で第二次市域拡張から100周年を迎えた。この春、北加賀屋へローマの社会センターから自主制作のシルクスクリーン*印刷工房 Østile (オスティーレ) のみなさんが初登場。かつて大阪市域に編入された住之江は戦時下造船所がたちならぶ軍需産業の生産拠点、戦後は貯木場の移転で材木加工業、現在では物流基地の集積点となっている。コーポ北加賀屋も、そんな下請の町工場を再利用した共同工房。互いの道具と方法を共有し、その実践を学び未来へつなぐ機会をもつことができた。

[日時] 2025年4月5日(土) 13:30~18:00

[会場] remo / コーポ北加賀屋

[参加者数] 70名

*海を渡る土壌: フレディー・チェン ドキュメンタリー上映会 with/Semi-underground Press

[実施内容] 2009年の反高鉄(高速鉄道)・菜園村保護運動から生まれた「菜園村生活館」は、2012年に二度目の稲作に取り組んだ。本作は、その春の作付けと端午の時期の稲作過程を記録したドキュメンタリーである。監督自身も風雨や猛暑といった自然の試練を身をもって体験しながら、仲間たちに問いかける——土地も人手も乏しいこの時代に、耕しながら生きるとはどんな景色なのか?

非伝統的な稲作技術の記録に加えて本作は農民と自然との関係、そして政府への抵抗運動から土地を耕す営みへと移りゆく過程の中で、活動家たちの心の葛藤と変化をも描き出している。香港より久々の監督来日の機会に、急遽 Semi-underground Press との共催で

上映会を実施した。マスコミ報道でその場限りの注目を集める抗議行動や政治的弾圧にとどまらない、ローカルな草の根の運動に地道に取り組む人々の日常に目をむける機会となった。

上映作品：稲米是如何鍊成的 The way of paddy
香港/2012年/カラー/128分
日本語・英語字幕
監督：フレディー・チェン/陳浩倫/Chan Ho Lun Freddie
プロデューサー：オーシャン・レオン/梁御東/Ocean Leung

[日時] 2025年12月7日(日) 15:30~20:00
[会場] remo / コーポ北加賀屋
[参加者数] 40名

③奥能登アーカイブプロジェクト ディレクション

[実施内容] 地震や水害のあとに向き合い記録された写真や映像を資料としてデジタルデータで残し、人々の交流を進める参加型のプロジェクト「奥能登アーカイブ」が始動。拠点となる「スズレコードセンター」がオープンし、イベントや展示を実施している。remo はディレクションを担当した。

④わすれん！vol.2 記録活動ミーティングー能登から／能登へー

[実施内容] 昨年せんだいメディアテークで開催された、能登半島地震にまつわる記録活動を紹介する「わすれん！記録活動ミーティングー能登から／能登へー」の続編として、石川県にて実施。新たに生まれた記録活動や担い手が参加し、展示もボリュームアップした本イベントにremo が協力した。

[日時] 2026年2月14日(土) ~27日(金)
[場所] 石川県立図書館 屋内広場

(2) ワークショップ事業

[事業の対象者] 不特定一般

remo で実施しているプログラムは、現在以下のとおり。

①ご近所映画クラブ

[内容] 「ご近所映画クラブ」は、映像作家ミシェル・ゴンドリー氏設計による、映画をつくるワークショップ・プログラム。参加者が「企画し」「計画をたて」「撮影をする」

の3段階を相談しながら3時間で映画をつくる。専門的な知識や技術がなくてもOK。ムービーカメラを文房具のように手軽に扱いながら、作品を作り出す喜びを、みんなで共有するプログラムとして実施している。

②[remoscope]

[内容] [remoscope]とは、remoが考案したリュミエール・ルール【固定カメラ/無音/無加工/無編集/ズーム無し/最長1分】に則り撮影された映像を総称する造語。それぞれの視点で撮られた映像を持ち寄り、上映、談義する...いわば"句会"のような観賞会。特別な技術は全く必要なく、初心者、経験者問わず「作品」を創作し、それらを発表し、お互いに鑑賞し合うことができる場となる。2005年より子どもからお年寄りまでさまざまな年齢層の人々を対象にワークショップを展開している。

(3) 情報収集、研究及び発信事業

[実施内容] 2025年度実績として任意団体、大学法人等からサーバ管理等を受託。

[事業の対象者] 不特定多数

(4) 活動支援事業

当法人のメディアに関するノウハウを駆使し、様々なプログラムに企画協力やトークゲストとしての参加のほか、記録映像制作、教材用DVD、機材提供など制作支援を行った。

*めとてラボ | アーカイブプロジェクト 〈〇〇〇年後も私たちの生活やことばを残していくために〉「場づくりについて学ぼう」

[内容] 参加者の記憶と物語を引き出す「場づくり」に焦点を当て、これまでさまざまな地域で8mmフィルム収集や上映会の企画等を手掛けてきた当法人メンバーの松本篤から複数の活動事例をご紹介した。言葉の集め方や記録の残し方について具体的に掘り下げ、新たな気づきや対話を生み出すことを目指した。

[日時] 2025年10月18日(土) 14:00~16:00

[会場] 5005

[講師] 松本篤

*アーカイブ展示「小さな記録を持ち寄って、」トークイベント「小さな記録をひらく」

[内容] 2000年代初頭より"市井の人々の記録"に着目したアーカイブ・プロジェクトを行っている当法人メンバーの松本篤がゲストとして招かれ、主催団体のプロジェクト『小さな記録を持ち寄って、』や当法人の活動について語りあった。

[日時] 2026年2月14日(土) 17:00~19:00

[会場] わおん書房

[ゲスト] 松本篤

4. 社員総会の開催状況

第24回通常総会

開催日時：2025年5月28日（水）20:00～22:30

開催場所：NPO 法人記録と表現とメディアのための組織

※新型コロナウイルス等感染症への感染防止を考慮し、一部オンラインによる開催

出席者数 正会員14名中12名（うちオンライン出席3名、委任状4名）、欠席2名

議事内容：

2024年度事業報告および決算報告について

2025年度事業計画および活動予算について

役員の任期満了に伴う選任の件

5. 理事会の開催状況（場所はNPO 法人記録と表現とメディアのための組織）

開催日時：2025年7月1日（火）11:00～11:30

議題内容：代表権を有する理事（代表理事）の選任について

以上